

口笛はなぜ 遠くまで聞こえるの

あの雲はなぜ 私を待ってるの

豊かな自然環境と平和な暮らしを守るために

少女の問いにおじいさんとアルムのもみの木は答えをだしました



スイス：九州とほぼ同じ面積の国

## 核兵器禁止条約に賛成

7月7日国連会議で122カ国の賛成で核兵器禁止条約が採択されました。欧州では、北大西洋条約機構（NATO）に加盟するほとんどの国が核兵器保持に固執する米国の圧力のもとで会議に参加しませんでした。NATO非加盟のスイスは賛成しました。

## 原子力エネルギーの放棄

スイス政府は、2011年の福島原発事故の教訓を得て、年月をかけて慎重に法案を作成、連邦議会の承認後の本年5月の国民投票で、2050年までに稼働中の5基の原子力発電所をすべて順次停止し、新設も禁止する「エネルギー戦略2050」が承認された。

新法は15年度に全発電量の33.5%を占めていた原子力をゼロにする。不足分を埋めるため、水力発電を2050年までに55.9%、水力以外の太陽光、風力、バイオマスなど再生可能エネルギーを30.6%と大幅に増やし、不足分を天然ガス・化石燃料発電の13.5%で補う計画である。ドリス・ロイトハルト環境・エネルギー相は「原子力エネルギーを放棄する歴史的な日となる」と宣言した。新エネルギー法は2018年1月から施行される。

そして、

## スイスは、北朝鮮問題巡り仲介に名乗りを上げました

9月4日、スイスのロイトハルト大統領は、スイス軍は韓国と北朝鮮の国境付近に配備されており、スイスには中立的な外交の長い歴史があると指摘。「仲介役を申し出る用意がある」と述べ、「対話する時期だ。大国には責任がある」と述べました。

原子力発電と核兵器は表裏一体だから脱原発と核廃絶も表裏一体なのです。世界中で原子力発電を使わなくなれば数十年で核兵器製造技術が消えていきます。広島と長崎、ビキニ、東電福島第一原発事故と、原子力の表裏両面で被害を受けた日本こそが、最も強い説得力で原子力発電廃止と核兵器廃絶を併せて世界に訴えることができます。アベ政治を倒し、放射能汚染の恐怖から解放される脱原発の新エネルギー計画を決定し、速やかに核兵器禁止条約を批准して核戦争の脅威からも解放される「核のない世界」を子孫に残しましょう。アメリカの核の傘から抜け出し、北朝鮮問題も平和憲法の理念を生かした話し合いによる解決を進めましょう。

# 原発なんかいらない！ 自然エネルギーで充分代替できる！

目先の利益と核抑止力に取り付かれ、思考停止どころか逆回転まではじめている原子カムラに群がる政治家、官僚、経営者、「有識者」たち。フェイク情報で原発依存のエネルギー計画を復活させようとしているが、事実はそのを許さない。

(以下、環境ビジネスオンラインの記事より)

## 新電力への変更 450 万件を突破 7 月も 29 万件切替

電力広域的運営推進機関 (OCCTO) は 8 月 9 日、需要家による電力購入先の変更を支援する「スイッチング支援システム」について、7 月 31 日までの利用状況を取りまとめ公表した。

昨年 4 月の電力小売りが全面自由化から 1 年 4 カ月で、電力の購入先を新電力へ変更した契約件数は 454 万 4,300 件になった。

なお、同機関が発表する数値には、500kW 未満の高圧の需要者が 2~3%程度含まれる。

新電力へ変更した契約件数をエリア別にみると、首都圏が全体の 51.1% で、関西圏が 21.3%。

両エリアで全体の 7 割以上を占める状況が続いている。



発行 原発ゼロの会大阪

## 自然エネルギー技術情報

### 太陽光発電の電力を全て地産地消

#### 福島県相馬市に送配電・小売の新会社

IHI は 6 月 7 日、福島県相馬市、パシフィックパワーと、同市内における太陽光発電による電力の地産地消と地域振興を目指し、特定送配電 (小売供給含む) や小売電気事業を行う「そうま I グリッド合同会社」を設立したと発表した。

#### スーパーなど小売店舗向け

#### 太陽光発電を 100%自産自消できるサービス

アイ・グリッド・ソリューションズ (アイ・グリッド) と環境エネルギー投資は 8 月 21 日、スーパーマーケットなどの建物屋根の遊休スペースに太陽光発電所を建設し、そこで発電した電力を、送電網を介さずに建物側に直接供給する「オフグリッド電力供給サービス」を開始すると発表した。

#### 黒潮による「海流発電」の実証試験

#### 無事完了 2020 年には実用化か

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) と IHI は 8 月 25 日、8 月に鹿児島県十島村口之島沖の黒潮海域で、100kW 規模の海流発電としては世界初となる水中浮遊式海流発電システムの実証試験を完了したと発表した。今回の実証試験により、100kW 級実証機「かいりゅう」が想定どおりの性能を発揮することを確認した。また、発電性能だけでなく、海流特性や設置・撤去工事手法の精査等を含め、今後の実用化に向けて必要な実海域での試験データを取得した。